奥羽道中膝栗毛

上

へ13
1164
55

奥羽道中膝栗毛初編自序

一覽世の戯作の冊子をかゝんとて雅を過倍み倦て。親棚切落共ヤシヤといふ小説。

然れども中ゝ且那もめぐ。おこゝも興ぎるハ膝栗毛作。読ゝ年々偏と重て。四十有余色の今ゝ

世ゝ奥るゝ。さるかゝ板元

へ13
1164
55

忽ち欲心を發し。あのれが敗名を時の樵夫
に告げよ。旅中の得難き藥を。塵ホ
馬を高のみ〳〵なれど。最早先師の秘事
鞭もうもれし。糟粕も殊の法しるべ。
そも宗祖のうの上ホの小附を主〳〵。
弟の見る遷〳〵。業の鞭も刺ざれば。後退

の逸伏禀も曾て〳〵あるべき。
面の皮を厚總鞭と法し先心の動手
手繰こうれ。足あしの道中始め。初編
三冊を葛藤根葉を磨畫之場ら
ごとあるべ。人ハ嗜廐の糞に猿智恵と
や笑ふ。ぜ〳〵お釜の前と笑ふ

が。造々奥羽の舊跡故実を正し。
風土物産を辨じ。再陸奥の杖を曳て。
旅中の筆の跡なのこりてこそ

干時弘化二乙巳年稿成
仝五申季初春叢市

十返舍一九記

凡例

○此編先師の文意をあらふとゐへども滑稽洒落をおいてふ
餘りに品くだりなるい用ゐず
趣向ハ一時の戯作とゐへども舊跡故事風土物産の類ハい
さゝか虚談をまじへず
○驛路の里數在々の定格等ハ諸書を參考し且其土地に
至りて而して決まぶらるれも
○このさしハ原來兒女童蒙の弄びりのとまれハ假字格用等

もべて俗ゝまさぐふ其一ツ二ツをいそぐオヤのかゐをヲヤとゝ
ちゐうをちうゝ畧を余ハ准へてまるゝ
邊鄙の方言とゝ[illegible]慢ゝいゆ〜むつきゝたくゝ切て田舍
ゝ古言の遺まるものゝ奥羽の人の俗語ゝいゆ出まるハ
ちとゝまるをゝいちハ即座ゝとゝいふ意ゝて古今集序ゝまちゐ
き世ゝその名をゝとゝえる人ゝまるゝいち僧正遍照ゝ[illegible]賀之家集
ゝまるゝ[illegible]ぱちゝとゝ[illegible]君ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝどゝゝゝ雅言のまるハちゐりゝいてゝいふ

○父をてゝちいふ事空穗大鏡のたくひ假字物語ゝハま
べゝゝゝゝ○母をかゝゝといふ事ハ袖中抄ゝまるゝ人を
ゝていふ詞ゝまるかゐゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ事ハ源氏玉蔓
巻ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

奥羽方言の大意

○永柱仙臺にて たゝひ出羽最上にて 津輕にて
きゝ海南部にて 薩氷會津にて きどといふ

○母出羽にて だゝといひ○兄をあんとゝいふ南部
にてあいゝといふ○妻仙臺にて おゝる又ゝごゝる
津輕にて あつぺといふ○小兒奥羽にてゝらし又
ぼとといふ南部にて末子をよてとといふ○息女奥羽
にて おどゝう南部にてをごゝん奥州にてまゝといふ

此余奥及にて○眉をこゝうのけ○踝をたゝみいぼ刀鴨
をたゝぶ○秋鶏をあきゝゝ○目張をそい又まゝい
○笠子をこがゝ○蝶をてふま○蕃椒をこせう提
燈を火ふくゝ○盥をせんそくそち○裏ゝとよかゝ
○桶をきゝなどいゝゝぐひかぞくあゝるゝのとまゝ
かゝ所よりて名目のかゝれるを考るべし

引書摽目

東科日記
宗長紀行
佐野渡　宗碩
偽松島日記　清少納言ト云
春の曙　馬丸光廣ト枝桑拾要ニアリ
東遊行嚢抄　江間氏親
蝶の遊　自隨寿先生
千種日記　人見友元
阿古屋松
東國記談　寿崔母
山吹日記　今条高秀
日光驛程期見雜記　桂山多記先生
廻国雜記
宗牧東國紀行
氏康武蔵野紀行
羅山文集　林道春先生
鷲峰文集　鷲峯先生
宗祇諸國物語
奥の細道　芭蕉
東奥紀行　赤水
湯遊文草　旭山
東遊記　橘南谿
東遊雜記　古松軒
東山志　嶺谷勝愛

○江戸名所圖會○東都四神録○四神地名録○木曽海道名所圖會○許我志○古河志○下野國志○陸奥名寄○山口安良押原推移録○日光山志○日光名跡志
○奥羽觀迹聞老志○陸奥話記○白川遺事考
○會津風土記○會津四家合考○松島圖誌○府内志
○信達風土雜記○庄内物語○秋田城記○津輕志

是余古事記日本紀等の國史萬葉集等歌書その外和漢の字書を採用せしいくばくの其書をとくと畧せ又千住驛以往武藏下野陸奥の志賀を採用せる事少かゝ覽ど片紙の堪ふる所よわゝ〻〻以てたゞ其一二を記せ餘ハ本文又二編三編の初ふいふべし

天童子
弥次郎兵衛

夏の原野ニ生ル毒草
毒虫數多ルれハ挙て尽
ゝ難ケれども就中蝮班猫
の大毒ある事ハ世人乃
知る所なり其外諸虫の
中無毒虫ハ稀なれ
て毒あるものゝ多ふ時ハ
蚊蝨ニ刺るゝおそれあり
ゆゑに蜘蛛蜂蟻蜈蚣
蜘蛛毛ハ
用心ゝ

唐班猫

和班猫

蜥蜴
和名トカゲ
石龍子
山龍子
同物

暑熱別而甚しく毒草
異虫も多き故旅人つゝ
まて山野ニ休むとも
是六の心得あるべきこと

蝮ハミ又反鼻蛇
マムシ
色黒黄十り
種類多シ大毒アり

烏蛇
カラヘビ

萬歳屋

風呂敷と
山花
毒を
つむや
年社市
福

浅草寺鬼やらひ十二月晦日
本堂にてあり
ふるきもの僧の
いとなむ所にて
いと古雅なるものの
ありこれ大内の
追儺のなごりとぞ

公事根源 曰 追儺 廿日
ふるかのやらふあるべ
大舎人寮鬼をつくる
陰陽寮祭文をよむ南殿
の階をつきてよむ上卿以下

是をおにの中略 追儺と
ゆふ年中の疫気を
ととのふ心なり

鬼と
ゆふ
方相氏の
なりなり
四目ありて
おそろし
げなる
面をきて
手にさすてをもて

[illegible]
[illegible]文政二年[illegible]
[illegible]発市[illegible]藤栗
毛[illegible]八編東海道の
滑稽満尾[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

藤栗毛初編中版せしより栞[illegible]年を二年
一年ばかりふく金く淡尾[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

多あり。金花さく陸奥にハ。俗うりの好物。欲づくを
春霞とゝのふ。白川の冥ゝとあるゝざを者ハ年中
求ふ作をつぐゝとゝいひく暮をたゝけりの耳紙
とゝりく鼻をうゝどの八丁堀ふ住るゝハ。皆さゝどゝん
ドの弥次郎兵衛。我家を十匁金一九といふる廉
りのふ留守をゝこのゝ居ゝの小八ゝひゝつゝ。まゞ
淺草ゝ馬ゝ乗る牧場の先生鼻毛の延るゝ
草庵をおとゝふ。ゝの家の同居人笠屋ゝと

いふのらゝりのゝなるゝゝと同ゝ奥の山家の生れ
にして。生ゝ花菓湯をちゝゝりおゞえ。敬俗ゝよ
とゝちゝよの学びゝして。医下を主ふ小ゝひ銭をせ
しめゝゝ云へぬゝゝうゝたゞゝう口功者ふ表裏
ゝの。ゝ文の智恵もあゝゝ。十ゝ文で人相ゝる
を活計とゝるゝなゝゝゝ定めゝ世中をゝ
ゝの展ゝの思ひ法ゝゝ

今年ゝ好色ゝ
まゝ殺せんきゝよせる

ゝゝゝ弥次郎兵衛ゝ
ゝゝれゝゝしかゝしのゝゝゝ

一ハイ形ゝゝゝ取決を形ゝ

迎る「ハイ〳〵ごアらざらう。まる人お見ごごろ半ろ
出あさろ「相乗ぢやござらるい。うふうぎ抜ぬぞい
お前いろくくんるさろ。ト おもくあそ。孫二きろけそろごまとらだ
「おさのゝやまる。何乗人相ごろくるふゝござろ
まるを迎る「ソリヤあごけぢやあい人おざ。ちろ「有ごい
紹ろ。繁昌をるとんざ。ト まるくまるをいのると。一人へふた
孫二「十に人相ご遠ひ中ゝろ。ちろ「エゝ。なの人ちあご。朝ろ
おぞのろ。孫二「とんあろりぢやアおろも当ふあふねく

小八「見ろ。案内ごあゝ。ちろ先易をおいゝろ。立ご
ちゝ「チヨリ。今ふろあさ行。ろんとふごめふ合ヤス
小八「ヨシ〳〵。助太刀小八。拵者ご羅生る。まゞ「その敵く
いろた。人お骨拵ま天ぢ〳〵さく。孫二「エエいめ〳〵い
毋前までまぜやアごる。門出早そろさのさ成ごと
りい迎る「門出とんあ君お拵ぐ。ごまろごれへ
行ーまる。あんでも草拵旅立のろーあさるちふ
ぢやろご。そんごろ落用ごとぢーろ。ムシ。アア雪え

中と敵ふうしろ城ゑんせき矢落のうしめさるゝ延二ごう
あくく四方十二ぐん万端紛雷いく。奥州一覧
とゑのけるのサちゆとこんどゝ風流めろして中ごろ
さうと思ひて。お前方も同乃ゝく連あり牡丹の
師匠ありり。あ道ろけうく誘ひふ来やゝ。時ふまび
一ツふくいさでさそんどうも北頃ん江戸中ふ出ふ金
のぎあくで迷惑至極サ。色角煙草の紙間あん
国りの天神さあぐ。遊る「イヤ」ちまんふ出ごい地ひとり

いの秋声しめさらアト。とその金そうふ系ねわろうろ世うえんのさうこハ
ありてえそこるどん年中でりうりうのよ元旦那
由ゑ陸奥ゑんなゝ中ゑふかうろをふ八ゝ月ぐらめくて出ひ乃中の用ふ子れ義ふで
ゑんうゑうえんゑんどんをちうゑうかゑまぐそ。「今日あ大人を誘ひふ
ろうゝゝふ余の儀ふあくぎサ。東都ふ名ゝる牡丹の
大せんせい生ぐ本朝三景のうオ一ものふ松島をゝぎどんが
あるゑのくぐゞタ。俗ろくおのゝ二人ぢりでいりものの
繻子毛で孫くゝ紙人ゝ生ゝち成長派さそつ
て行うとふ注文サ。昔の浪服忠義とゑゝぢやア

孫人ゞ歌枕を志ふ行のゞ。ナント意氣ゞセ行るせゝく
延る「あんちゝゞ假名遣人だゝりいれて地獄ゞりで
外道のゝゝ。浪花忠義ちゝゞ及りのゝそれゝ實
方中ゐちゝゞ。禁中ゞく行成卿と法を會をして
冠をたゝ引蔵しゝ家流のゝサ。それで帝の御き
げんのうそゝわゝく。歌枕残ゝくまるまゝいひめゝ
ちゝく奥見へ下向さゝちゝゞ「笠島の道祖神
のとゞめで落るゝして夢ゞ結ひちゝゞ本殿神社

考ふなるゝとゞア小八「そんゝるゝゝ雅も兼知サ。まゝゝ
歌枕をゝんゝるゝだゝりちゝやア面ゝく孫人ゝゝ此家ゝ哥
枕を歌ふ行のゞ延る「まゝゝ何ゝいひ知ゝてゝまゝゝゝ
と思ふ延る「ちゝまゝゝ孫ゝゝゝ哥枕をゝゝふ
ゐゝゝまゝ孫ちゝゝゝどゝゝゝゝゝゝゝゝ光「是ゞゝゝどゝゝも
いけ孫人ゝゝ歌を使ゝゝゝゝ歩行ゝく泊ゝゝゝの旅
竜屋ゝく二人ゝゝゝゝ本枕をゝと出ゝゝゝるのサ延る「大
方そんゞなゞゝゝゝゝゝんゞアと思ふゝ。チクト是ゝゝ風流

の方のう毎へさツ出やれ 小八「ナニソンなるへぞうさも
稼人・風流の方へ爰ぞ蕎麦の路を隙く切
が一番ぐ 絵二「ナンダ風流・こりゃいく時ふむぐ陰て通
中の用意が仔細ぐ立入さるぐ路有なんぞい諸
事ちゃうが方でうけあり ぐ 小八「ふ二さん亦大繰な
迎る「路用ぢめんるさろちゃんへいるくどざんなるぐさろ
ち斗ぐあざけのふぢやろ ちゃう「イヤ一ふろひこアの系
いるふいハっ「さんの人相ハ天傳ふ光りを出ぐ 紙帛

宮ふ ふろとびのあるちふ氣ぐ又元ヤスサア 小八「ホ二生生
ハ・人ぶが上るぐと笑さろう 遠へなるらうおいらの
人相ハどうぐ立面がふのさそうろ子 絵二「毎茶を立面
がいと見るぐ又ハ横町の異伝屋だろうぐ 小八「あせ〳〵
絵二「それでも昨日猿殺引を買る時事ぐ小
ハさんハえらい信靈紙お持ぐろう出来合の猿ぐ
信靈ぐあまりませうとのうる 延る「アハ〳〵異ハ縁い
ちろう勢ハ孫二〻縁のなりそうあるをいふをあて思ひ孫二紙なて
ときりふ金物紙そうりて後をるせるふうおとうせんとあるひ

梅の花笠
前頃

「世上に猶えぐいるゝ唯この形こそ小人の金銀財
宝ぞ。いくら金銀ふ富あるとても人をめぐむ心なぞ
けもべ畜生も同じこと。我一人富び外におぞくも
多のもふきもちをいへ君の孤る所ぢでこそ天地
のふくこそ紙くる所ぞ。そんぞ人から後ふも金銀と灰吹
とのひとス 仮二「何ぞ糸先生をうらしの事をのこ
ふぬ。おいらを根性ぶきされんといふ事ふ聞えて悪
森羅万障つくと。松島まで略用を綴ふと
いふ具形さあぐハナ この物の不思議なこと入れひ出ぬ
ゆぐらゆくあるぶ 小八「余程大気な且那でもあるらう。隠ゆ志
せくらくくひて
つくまる根性魂サ 仮二「コウ人ぬ前まで已をこるくいやアグる
何ぐ志をッくあまぐ 小八「絶接をいそふろ「とれ
仮二さんの部ぐア 仮二「歩ぬ「西瓜のくゆ。早く絶
接ぐ字ゆ 仮二「氏系図が何をぬ言ぐぜ。ザア小八生毎く
絶接を出さわくら 小八「いんぐ糸瓜畢竟夜の蓮の瓜
を那そまのぐらせくふ志やせう。保夫ともいそうう

[illegible]ども、ふハくあるたりの四ちつるものすもちろぐ昔
のろうこんぎらいそくそんるそうりがてしぎうこそこれぎうふぐるつそも寺
それ 巻二 「[illegible]てゆへ
おんば みてみるれぐとふのハ那時ちる
世の借をこの千ほゑ取ふてくれる時銭ぐ孫くらおれれ
加せそのうこをぎ。おまぐ銭くるうさそのるうふハ「ナ」ダナあり
ろくくも孫へ何おまぐそんるこみてくれるをいうこ 巻二 「那」
時このふぐなるものぐ。一昨年の二月時分ぐ。山王子の鳴り
がけふ上野で廣小路で汁粉屋の餡ふ出ふ食ふる時ヨ
ハ八 「それへあへくがあのうらふ借というこのぐ。うで鶏卵を

一ツ買くくあへくふ喰ふ中わへくが選抜となって。きう銭ぐ汁
粉を喰ふとゆ問ふ時のるぐ。ふ拾四文ぐうう。ふ拾四文ぐうナニ。
おまぐそんる云みてくれるる紙いふりのう 巻二 「生ぐ」
いのうくくあへくふ自慢ぐ申ふてくるのヨ。あのとれる前ふ譜二
ハ教ぐのう懐中ふ持て居るぐ。ふ拾四文の立らの
出来ぬこのふも不便あるぐ。ぐうこ鶏卵をかうあら
二ツ買ばいふふ多ぐだうう喰うこのふもうふぐこはぎる
孫へ銀煙ぐ 巻三 「ちまぐ」 「ちまぐ」 借ふい者ハ

第一わうぶの御ぶゝハ（ホン）三度掛さちけん孫〳〵ぞ
そんゑ昔のうゑ瀧後ふ手うとわん（ルビ）
まつりと新〳〵の今日切のあやく〳〵といふ瀧後ふ有（ルビ）
とれハ面白へいろ〳〵孫人（ルビ）
ハなんちゃう（ルビ）（十二サイ）かうしひ出さ孫人と瀧後ふ後ぶ
ちうねん〳〵へ抑〳〵是ふ安生孫人八ヒ中
者ハ夜陽うふ帰りぶけふてんぷう成ぶたる時已ぶ
喰う其数成ぢらまろさうと孫人時ゑ
事ゑ孫ハ及び（ルビ）一モウくそのいひうちの平ぶ
ゞヤをういろ〳〵孫二さんふ瀧後を出さんれる。見ぶホンノ
から高野へまわるのぶ（ルビ）孫二さんも余り弱人ぶ
わ〳〵のサ。罪をぶ人ると成社もなるのサ「コレハア」お子の
方ハそんわふ出〳〵ふ枝ぶさ孫人そなんぶろさッちり沢ぶ
ろ〳〵ぶるい。まんふハさんぶ瀧後ちゃうぶ。あんぶ〳〵めふ孫ん
出ぶ成ぶ生ぶあさうぶ。お前の船のうちゃうぶ江戸中へ引
礼ふも出うまけまいそこぶ朋友の信ちめぶ廻る「ち

ぶんどごろるい夫婦別あり兄弟義あり。朋友ホ
信ありしゃア　孫二　ナンダまそきふ哭いるをいひ出さぜ。
飯ぐもさそくなやアちめへ。ちんがなのねへのと
いひてあれもまんざら無筆文盲でも孫へこうの義
るのあふえくものぐ。ペン天地乾坤四夷八方　小八　ナンダ
そもそも地獄。おらアそんるぞい孫へ　三人　アハハハハ
小八　ナンノ　雑子の半そまずぞふ。孫二さん迄おんあ
やふ笑うるい孫へぐちの親もあんせふ　孫二　又

そんな大言戯言ヨセ　大言ぢやアない孫へ今乾出ぐけ土地内
でまるぞふ煙草をひろうるぢやアない孫へ。それハちや
と仕意て置て人の煙草を孫ぐ出孫へと思ふそもあ
よかとろふあめへの心意気がけちぐとふるヨ　孫　何ぐ
と思ふくふ其事ろ不計ふ気をもませやアぐる。ナンダ
なのやア煙草へぢやア孫へ　史　ア　何ぐ　何でも多ぐ
しと存ぐいまふ孫へのヨ　史　煙草でなければ何ぐ金ろ
ア　ヨト　ふひがそ　史　先刻　御用をまろふふ

といへば今又煙草ぢやア稼人ことの外其品性かく悪
所をこんちやア何でも詠さんうあくるざる 雲「さう
いふてもごうごうが煙草をやるでへそのいぶどしとちんお
らうるさろイ たばこのをとりあげ 延「エヘエヘエヘ。ぐくぐ
ホリく。若るーいで若るーいエヘシくホリく。せん
るいくちくあんちゃぐ幾「どう出るもちろ
延「どうーーちゆハまぐりくと何の義理が有てとん
ちあれあせ合せる。ハツクレヨ目ぐひ重ついて裏ぐ

みうつる。ヘンくー恩を仇とへとめるぐエヘくー 延二「利ぐ
何成もるのぐぐうくーこのぐろ紙ぐまくく稼人 延「
紙も俳宣もいらぬとあくぐぐま野郎 実郎より和ん
ばくいんのうくこの煙草入ぐ。ア。喰ぐひりく。ア 絹
ぐうりい義理をさまぐ屋紙されるとんぐア。 延「
何の面ちくもねくむーつの笑羅ぐ 延「笑羅も空
ぐくらーいぐるさるうり外ん烟草入ある定を附さ者ハ
どぐぐんあいぐヒリくまるト 中やうふるーぐをうきまもうう
それも せぐぐぐるのくうれ合せる

ける。ゆハ八ハ泳さうな者をもせふ〻てやらんと安八の方へわらはがや
くそふてきのどくふちもんど。今更おれぢやもらそれぢはめまるて
遠エ　移人　泳二さんが烟草入ハ　移物ふきく〻いる。兼い酒落
。あんぢのふの　燈るのでさんむせんぱい。エヘラく　泳二　「る者
きりのふ　戯言　も時ふよる。毎者ッさッくまぢりく
いつも生人ハ紙出ます今月ハ限ッて引込名案でをう
ーーみそぶりぢ何でも毎者わやい兼ぢやれ紙出
ふらく　ゆハ　「なのおれがそんるいらぢををるのっそれと
そもんの美新ぢ　ちく　「あんでも此内ハ屋幸

子の袋紙おくをるものが嵩んぢ。稽々懐ろ縫生を
かぢうつふるんぢ。ザ出さんうらえせるおさろ　ゆハ　「ナニお
きぢそんるす紙新りのっ。ゴリヤ泳二さんハ遠人ぬ人　泳二　「ア
ーーても馬鹿をぬうをろ。ま。先生コリヤアハハハ表
遠ハるやをあ人ナント人相いどうでどざりぢ　「イヤく
人おくコリヤ出者の方ぢやろが泳二　「茶ぢ
「なのぜちぶそどうやらぜぢがらうえんヤ　泳二　「ヒヒ
何のるぢ　酒落どう務ぢやアぬ人　迎る　「コレ烟草入の

中ハ片通りゞ　何のるんハ唐辛子袋のむゞア

弥二さんおめくのうあさろト　ひひろぐ〳〵弥二ゝ〳〵ゝ腰が加減さと
ハをるげつる。弥二ハ用をうう
うあめてうけをあんと考てるが。ふそ
ゆうるとたさと入のはうりもうと死ま
月ゆえのるゆへいうしさふるとの
うけうるゞゞるうとひうりうるとだめと　ものゞうち

「ぎゝギウジウ〳〵〳〵　チウ　三人ハびうう
天井をたうあ長変ゆれがさ〳〳〳〳けふかりあ仕をうとあふてそのうんふ
あまうあ志やうしふうるみのうゞひ。うゞうきゑ櫛のことれうう　ゐどさあ
ざあのふうゞうゞをのせくあいるゞ此さうとあうる　音
くもあのくけさんまく一どふどうさうとあうる
ハハハうゞしのあうゞ一ハ此ゑうて月に紙おさうう
おうあきう此ゞ一月をあうんとまれどあみてあうれゞ天井のうに

ありて死さうゑ此ハ「まんゞうらゝ。助紙〳〳ゞ系〳〳
三人「あいうゝ〳〳〳〳　ゑあうたきんゞゝのゝうゑふうさうゝうゑふ門
中ゝ一めんうゝまうゝうゝうゝびうゝうゝうゝやみ
のゝうゝ　四のうゑ「なうけてうれヤイ。ならうゝ〳〳ト　うあゝゝうゝ
おうえん「ありゝ〳〳ありうゝ〳〳の原ゞ。なうゝまうゝあゝうゝ
とうゝゝうゝあい結うゝの髪ゞゞのゝうゝにあうる　うゝうの髪べ
「モシ先生ゞうゝあうゝう。おめん方　時〳〳うゝん家ゝさゝ此
をゝうゝるさる。うゝうゝやアまアどうゝうゝるゝゝだうゝゑの蹴紙
がねゝ小ハ「へイどうゝと様うゝぞんゞ食せんが紙ハ俄育

人ぐ。かやうな弱俵お嬢お場合まして老死業生で
どざりまると。おそそけるまちてゆさるのやー「ヤ
お前目がおんえでおいろエ。それい唾おとまりざらうエ
まア何ふいてせうこーのやくおなせく史「そのく
有ざらうどざりまと。義角他人まるりまてて
なるる方のお情をいざれませんでいるりませぬ。イ
イ「モル」其奴ハ実の育人でんどぜくやせんどちハ城
正人正めくの居ざりでとぜくまと。どうぞおあさんの所

あるーちちゅう紙連く行ておくんるせくくり義角他
國くまるれてくなるるこ方のお情紙いざれませぬ。イ
史「モル」那藤行ってそ傳ものでどざりまれ 仮二「イエ
この育人くとせくものざどぜくまと。ちちとそ箱根
怪現くまる情のもの。ハイ親の敵をねらうものでどぜ
くやと。ようん「ちるるとまと藤五郎とハ押がつよのまエ。ど
うそれでいとちるのお育さんの方が正道らーの。ドレ
引出ーくあげやうト史をひきそりどて迫る「ちーる

お藤ハお藤の依こ〻ろ藤さん。どうぞ此押ふあつく
居る夢のうへのがゝるを取く〻おんなせへそれ程起
ならみくるとられるゝらうとそれも又寒らきまた
弥二「吾の頭顱ハ桁行ふ引かつて居やまでゝらう。どう
ぞ気く〻おくんなせへ　左衛「馬鹿なる紙のひるなせへ。何
桁行ふ出兼の頭顱ゝなるものゝ。引こゝてゐるのハ変
業の蛇だろうゝ　弥二「蛇だろうゝあゝら外紙それでハ
左衛「ヱヱうるく涌蔵なさるゝ　涌「おつかァおぢさんの

頭顱ハ大ゝがつくく落涙の方へ移るヨ。おいらゝ取
かへてやらうト　ヨヤいろ〻ます　弥二「ナニ
おいらの頭顱を大ゝがくく好とそらハかしてハ
居られ居へトのくさの代つかそれ程ふ浮ふ気へ引ふ
書あさん耶新へおいるさる。そうてまァ藤行がこゝく
ちゝ。なのてゐるもあい　強「藤行もモウ今日ハ
是切なさを程ふ明日ふ飯を喰
事がふ移へ。まアとをそるふ世へ何でも

鄭重よ
きびつゝ
ゝる
あるま
こそ
きてゝもよく
似る
鯖の
入道

九返会
一昇

ろうのど
喉をさまやアあるく。この畜生めがくてくてう
せやアがるくるト　みるけさとなる　あるく　「ヒシ　おあさんいろけごらけの
茶羅頭顱あるく」いかるぢやア有ません。イケよく
どうもいどの頭顱をとる尋ぬあるエト　いまて　ふとふと　あとろろげき
「ハテ子ハ　あさま　成ま　ふ二　まいとろて
頭顱ごア　面白くも　ないこちやア一番ふたくらく
ていうこと思ひます　あるく　「いろあるもあんで人の
頭顱を大ぐろくて行きます。おあさん此さてぎで

取のがせて　出るさるこトいふころろ人長家のる佛先りうこあげ
るる　「ヨイくく。アリヤこるるのがろを作のさ紙人りろけそのちきれ
たるをやくく　サアくおちさんのの
ねて　「ヤくけ　かる　移く　これ　おちさんの頭顱ろエ
ふ二　「ハアア　是ごろろり中　天井の落さたべみおけ
假鬘ぐ頭顱　かるさうこ紙紙ぞみ落く。ごろのろ
針へ引かつくわけを。ほるまるぬけ出ごと　そつる
奴サ。コリヤア大矣ひご　あるく　「余りそつかへよ

アワ〳〵ゴゼモ「ヤア」といふ。大変ごあぢさんが二箇ぶち
ところされてゐらア。コヲアいたらい　左に「なのゞ名く〳〵ぶる
あく〳〵　延る「なぶるいぢやアごさらるいそんこふ見
てだろうござらるいで。なのくとろ　助けて長るさ名
絶良房へあんちもしたちくとも考ゞ名ちアゞ名へ息
があるるアゞ　ちて「息あるゞごろうとちウバアゞ名ろうく
延る「あんちふごろうろうぶるのく聲のうしやても考人
と申ゞ名るあうごゞマアごゞ　ちるゞ名れる　ちて「ろうろう

このうち絵二ろうちあ長家のくく一日あさちろうくろうろうごとうバ
ふるゞ名み。なとろうごゞけ。ゆろうく。のびるちろ家を引いごゞちて者く
なるさまくたるるくのまとくとうをうびろうろうろう　延る「和尚とう
名をうさふごろうく一どるごゞとろうひいごゞも
ちるゞ名れる伺の出仏ゞ　ちて「ろうろう。ゞろアくト　絵一
たろうあてるあてろのあくゞ成　絵二
ぬるあてれろとのふちるをまる「ハアとしるアゞ炭取をかぶッ
た術がぬけれくのゞナヨしくぬゞせく　やらう長生を
たしうふりちゞヒゞゆて　大くちろうとる成　うまて
屋しゞ。和尚の肩を考ろうあるくろんる　延る「ハト
よくどろうれ　絵二「ちあくくト　表白ゆく上の旅へ

ぬぐせやうとまとろみちてゝ方いろさとろく　注二
ぐろくるをのぐく注二ぐ二のうでを長さうある
しやアぐるト　長紙を　ちくろ　「くろくくくろくくトくろをちぬぐ
いつるをちろく　長家のくく　「羅紗さんハ瓠をぬぐのハいや
でちくくゝ世る　のくる
ぐといろりぐろう　注三　「それぢやなろぐこれぐおきヤス
と息ぐつまろて死でのける　注二　「此瓠をぶちるとこの
の苦ハ移人　注三　「ゾリヤハアさんぐる紙ヤるさろ長ハ此
なるぎまるど　「水戸町の播吟舎ふ武岩ちふで笠て笠ろく
のく　注二　「ナノ武分ぐころでも人の命ふやアけんちら

長家けく　「武出のと学ちやアさらしい物ぐふら朝ま
らもどうろ仕分ぐ有そうるものぐドレとうぐ番やん
てえやせう　注三　「それハあいぐ申りそとれねくく
武分様ふふまろう。羅紗房う命をぶちるくまろ
二ッ一ッる　注二　「その二ッ一ッハお前。どちぐをしるへ
おぐいるす武分ぐをしい　注二　「人の命紙武分ふ見
けくるとハなるどけ　れ人男ぐ。仕方ぐれくそん
あろ和尚をぶちとろして炭取を助やせう

紫の人

「イヤそなたハ大変のそんなる事ハてハこゝ
ぢかく寄合ふあり、まアく気を静めく新をぬく
工夫致まるぐゝト皆く暫く致組くゝ栗の内
羅羅房ハ新のうちで「ぐゝくゝとアく首うち
ふりてりさえゝぶざるぐゝ大うぐちやの踊のどく
皆く「ちやく」たて「ど門と笑ひうぞをの丸

奥羽一覧 道中膝栗毛巻之上畢